

<原稿>

2000 .2 .24 .12:00

聞き手 「ラジオで飛ばそう！ エコメッセージ」のコーナーです。今日は大阪ガス エネルギー・文化研究所の平山健次郎さんにお話をうかがいます。平山さん、こんにちは。

平山 こんにちは。よろしくお願いたします。

聞き手 エネルギー・文化研究所さんって、面白そうな名前ですね。どんなことをされているんですか？

平山 少し視点を長くにとって、エネルギーや環境、都市や生活のありかたについて、研究しています。環境教育についても、西宮のEWC（地球ウォッチングクラブ）のみなさんにいろいろ教えて頂いています。

聞き手 今日はエネルギーの歴史をふりかえって、それから地球温暖化問題や環境教育についてもお話し頂ける、とのことですが。

平山 はい。まず、人間がエネルギーを使いはじめたのは、50万年ほど前、たき火をして暖をとったり、食べものを温めはじめたのが最初と考えられます。その後、農耕や牧畜をするようになって、牛や馬の力を利用するようになり、また風車、水車といったかたちで、風力や水力を利用してきました。

聞き手 風力や水力は昔から利用してきたんですね。

平山 その後に、薪や木炭の利用が続きました。それから石炭を燃料とした蒸気機関の発明によって、18世紀に産業革命がおこったことは、世界史で習われたんじゃないでしょうか。

聞き手 なるほど。人類の歴史は、エネルギーと関係が深いんですね。

平山 そうですね。それから19世紀後半からは、石油が大量生産されるようになって、主なエネルギー源として、広く使われるようになりました。

聞き手 ガスはいつから使われているのですか？

平山 18世紀の終わりに、イギリスでガス灯として使われたのが最初です。都市ガスの原料は時代の変遷とともに、石炭から石油、天然ガスへと変わってきています。ちなみに、石炭や石油、天然ガスなどは、大昔の動物の死骸や植物が、長い間土の中にうまって、変化したと考えられるので、化石燃料、と呼ばれています。

聞き手 何気なく使っているエネルギーは、昔の生き物の恵みなんですね。

平山 そうですね。今の日本では、発電用を含めて、国全体で使うエネルギー源の八割が化石燃料です。

ところで、地球温暖化って聞かれたことありますよね。

聞き手 はい。空気中の二酸化炭素の濃度が上がったために、太陽から地上に降り注いだ熱が、宇宙に逃げられなくなって、地球上の温度がどんどん上がっていく、という問題ですよ。

平山 はい。この温暖化は、われわれ人間のエネルギー使用と大きな関係があります。化石燃料を燃やすと、どうしても二酸化炭素が出るからです。

聞き手 社会が豊かになって、昔と比べてエネルギーが使われる量も増えましたね。

平山 世界の人口が爆発的に増えていることもあって、地球上で二酸化炭素が排出される量は、増え続けています。

聞き手 それをなんとか減らそうというのが、三年前、京都で行われた温暖化防止会議COP3（コップスリー）でした。

平山 はい。エネルギー事業者はその対策として、今まで以上に、効率がいいシステムや機器の開発、さらには、ゴミ焼却場の廃熱など、今まで使われなかったエネルギー源の利用にも、取り組んでいます。

聞き手 市民も、家電製品を買うときは省エネの面で優れたものを選んだり、不況ということもあって、節約してエネルギーを使う人が増えています。

平山 エネルギーを節約することは、温暖化防止に役立つだけでなく、家計も助かりますからね。それから、温暖化はもう既に起こっている問題なんですけど、これ以上悪化させないために、今からが大事なんです。

聞き手 だから子どもへの環境教育が大切、というわけですね。

平山 この4月から学校では、「総合的な学習の時間」という新しい教科が試行されます。ここで環境に関すること、中でもエネルギーに関することを、是非扱って頂きたいと思います。

聞き手 自然観察やリサイクルと違って、エネルギーは目に見たり触ったりしにくいので、教えにくいんじゃないでしょうか。

平山 確かにそうですね。

でも、例えばイギリスでは、授業で先生が省エネの仕方を教えて、それを生徒が校内で実践して、エネルギー消費量を特に減らした学校に、国が表彰し、賞金を贈るというキャンペーンが行われているようです。

聞き手 省エネで賞金ですか。うーん、それはどうでしょう。日本では難しいんじゃないですか。

平山 そうかもしれませんね。でもゲーム感覚の楽しさで、エネルギーについて学ぶというのは、見習えますよね。

聞き手 楽しくないと長続きしないですね。

平山 それから、話し合いながら行動する、というのも大事ですね。というのは、誰が不便になることなく、できる省エネもありますが、一方では、ある人には無駄に見えるエネルギー消費が、生活習慣や考え方が違う別の人には必要なもの、というケースがありえるからです。不必要と自分には見えるエネルギー消費でも、どうして他の人には必要なのか、考えることが大切だと思うのです。

聞き手 最近、学校で行われることが増えている討論ゲーム、「ディベート」は、自分の意見とは逆の立場に立って参加する方がいいって聞いたことがあります。そうすれば、自分と違う意見を言う人の身に、近づけるんですね。
学校だけでなく、家での教育も大事でしょう。「親の背を見て子は育つ」っていますよね。

平山 私の家では、週末に車を運転するのは、土曜か日曜のどちらか一日だけに行っています。車が好きな妻と、歩くのが好きな私が、話し合っ折り返った結果です。

聞き手 親がそういう話し合いをすることが、子どもにとってもいい原体験になるかもしれませんね。

平山 今後のエネルギーについての教育は、意見が違う相手と、何とかして合意点を見つけていく体験が、大事になるんじゃないでしょうか。

「環境が大切だ」と言うのはもちろんその通りなんですが、環境だけに注意を奪われるのではなく、他の面での配慮も大事にしてほしいですね。いくら正しくても、あまりに一方的に意見を押し付けたら、相手は嫌悪感を感じて

「もう環境の話は聴きたくない」と逆効果になりえるからです。

聞き手 なるほど。エネルギー教育も、人間関係教育なんですね。

平山 環境が大事だと主張するあまり、人間関係を悪くしないこと。何か意味のある変化を起こそうと思ったら、じっくりと現実性を考えてやること。これは自分自身、心掛けないといけない、と思っていることなんです。

聞き手 今日はありがとうございました。

<おわり>

平山 私のエコメッセージは、

「じっくり話しあって、楽しくエコライフ」です。